日本共産党 前杉並区議会議員

TwitterID：@akikocurry

のがき 野垣あきことまちづくりカフェ

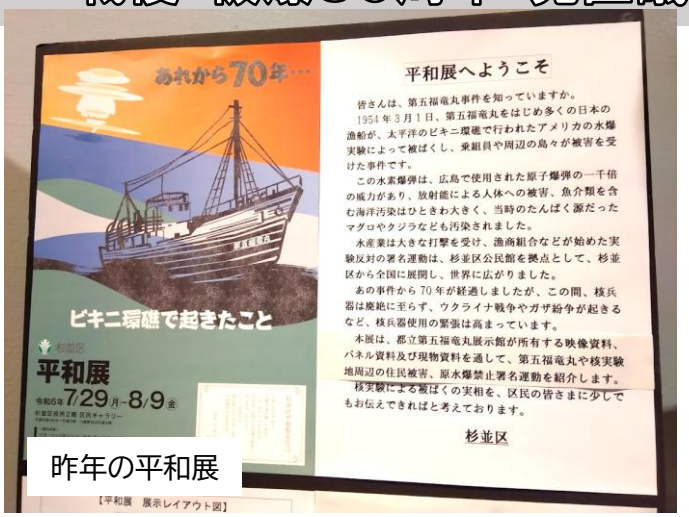
子ども・くらし・平和

2025年3月26日 №215

連絡先 090-9293-8710 ご相談もどうぞ！

予算特別委員会①

戦後・被爆80周年 党区議団が平和事業の充実を求める



昨年の平和展

3月6日から18日まで区議会予算特別委員会が開かれました。党区議団の行った平和事業についての質疑をお伝えします。

節目の年に相応しく多くの区民と平和意識の共有を

今年は戦後、被爆80年という節目の年であり、それにふさわしい区としての取組が求められます。

党区議団のくすやま議員は、年間を通して各地域で平和事業に取り組むこと、多くの区民と平和への意識を共有していくことが重要だと指摘、区内で活動する平和団体への支援強化を求めました。

担当課長は、平和活動に参加する住民や団体が増えていくことは住民自治の観点からも意義あるもの。区民が行っている平和活動を、現在は年間5件程度、共催・後援しており、より広がるよう適切な支援に繋げていきたい、と答弁しました。

平和の文化の担い手が育っていくような後押しを

被爆者や戦争体験者の高齢化に伴って、語り部・体験講話の担い手の確保が難しくなっており、平和首長会議では、「若い世代」の平和意識向上は喫緊の課題と指摘しています。

区では、2022年度から「広島平和学習中学生派遣事業」に取り組んでいます。

戦後80年事業

〇広島市の協力を得て「ヒロシマ原爆・平和展」を開催

〇区内の戦争遺構、平和施設などを掲載した平和マップの作成

〇被爆者証言記録映像の制作、公開

この事業の質問に対しては、これまでの3年間で83名の中学生が派遣事業に参加したこと、成果報告会では、平和のために何ができるかなど自分の思いを語り、来場者からは、学んだことを広く伝えてほしい、などの感想が寄せられているとの答弁がありました。

くすやま議員は、平和の大切さを次世代に伝えていくために、若い世代が平和文化の担い手として育っていくこと、それを区が後押しすることが重要と指摘。区長の認識を問いました。

区長は、「派遣事業に参加した中学生が、10年後、どのような気持ちで平和の担い手・語り手として繋がっていけるかを念頭において、継続的な平和事業をデザインしていきたい」と答えました。

広島平和学習中学生派遣事業

2024年度の報告書が下の二次元コードからご覧いただけます。

杉並区民新聞 2025年3月号外 杉並区民新聞社 本天沼2-15-12 日本共産党杉並地区委員会は以上の見解を発表しました。

予算特別委員会②

気候危機対策　2030年カーボンハーフ達成に向け総力を

米トランプ政権のパリ協定離脱や、日本でも山林火災が問題になっています。くすやま議員は気候危機対策について質問しました。

区民や事業者の省エネ行動は重要　支援拡充求める

気候危機対策についての質疑では、私が2022年に議会で求め、岸本区政のもとで始まった「気候区民会議」の取組を評価。2030年度のカーボンハーフ達成に向け、区が目標を明確にして取り組むこと、エコチャレンジ事業の拡充などを求めました。

すぎなみエコチャレンジの商品券　増額の検討を

区では、区民や区内事業所の省エネ（節約）への取り組み支援として、区内共通商品券を贈る「すぎなみエコチャレンジ事業」を行っています。

他自治体の取組も紹介し

電力使用量を10％以上削減した場合、杉並区は千円ですが、板橋区の「いたばし環境アクションポイント事業」は5倍の5千円です。事業者の参加については、杉並区は個人と同じですが、板橋区では、個人の2倍のポイントが付きます。

今後、杉並区でも、区民、事業者の行動努力を励ますうえで、商品券金額の引き上げを検討するよう求めました。

区は、現時点では妥当な金額と考えているが、今後、他自治体の事例も参考にし、考えていきたいと答弁しました。

また、電力削減効果を分かりやすく示したリーフレット内の絵図をチラシにし、各家庭へ配布することを提案しました。

気候区民会議で挨拶する区長

「すぎなみエコチャレンジ」

（R６年度のリーフレットより抜粋）

7～8月	参加登録申請期間
9月下旬	参加登録受付完了
10～12月	チャレンジ期間
1～2月	報告期間
3月下旬	取組結果（商品券）送付

- ●5％以上削減
  500円相当の区内共通商品券
- ●10％以上削減
  1,000円相当の区内共通商品券
- ●20％以上削減
  3,000円相当の区内共通商品券

※発送は３月末頃を予定しています

◀詳細は区HP内のリーフレット参照

西武新宿線の地下化とまちづくり

～ 下北沢から学ぶ ～

3/30（日）
13時～
八成区民集会所

参加費100円
講師　下平憲治さん（SaveThe 下北沢）

あきこの部屋

春分の日、荻窪タウンセブン前でシールアンケート宣伝をやりました。暮らしの不安は物価高騰がダントツでした。しかも、その半分はお母さんと買い物に来た子や部活帰りの男の子など小中学生が貼ってくれたもの。「食べものが高い」「親が今度海外に行くのだけど飛行機代が高くて大変と言っていた」など対話に。リアルな子どもたちからの意見に参加者一同ビックリ。

若者や現役世代は「賃金が安い」「中堅の賃金は上がらず生活に困る」との声が。石破首相の10万円の商品券配布や都議会自民党の裏金のスピーチに頷いて通りすぎる人も多かったです。